



『イエスキリストが十字架につけられた理由』

聖書の本文:ペテロの手紙第一2章20-25節・暗唱聖句:ヨハネの福音書3章16節

説教者:鄭南哲牧師

(Rev.Jung nam-chul)

今週から我々は主イエスキリストの受難週間を過ごす事になります。実は新約聖書を読んで見ますと、特に福音書と言われるマタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの福音書ではイエスキリストの生涯の中で十字架につけられるまでの最後の一週間の出来事を集中的に記録して下さっています。これを量的に比較して見ると、マタイとルカの福音書が1/4を、マルコの福音書では1/3を、ヨハネの福音書では1/2をイエスキリストの最後の週間に起こった事を書かれているという事で見ますと、神の御子であるイエスキリストが何のために、何のコールを持っておられこの地に人間の姿を持って来られたのかがよく分かって来ます。つまり、十字架につけられるためではないでしょうか。

我々がイエスキリストを正しく信じ、正しく愛するためにはイエスキリストの受難と十字架の意味を正しく知り、信じなければなりません。我らの救い主イエスキリストご自身のあやまちや罪があったためなく、神の前で罪人たちである我々の罪の御代わりになり、我々のすべての罪を背負い、罪の代価を支払って下さったからです。ですからイエスキリストのこの苦難と十字架は今日私たち一人一人と関係がある出来事であり、イエスキリストがお生まれになる前の約700年前の旧約の預言者だったイザヤを通して来られるメシヤイエスキリストについてこう預言されていました。イザヤ書53章5節には“しかし、彼は私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕(くだ)かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちは癒された。”

今日の本文であるペテロの手紙第一2章22、24節を読んでいただきますませんか。

“キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。” “主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたからです。”(ローマ人への手紙4章25節)

＜残酷な主の受難と十字架＞

愛するクリスチャンプレイズチャーチの家族のみなさん！みなさんがご存知のようにイエスキリストの十字架は決して美しい抽象的概念とは異なります！イエスキリストは神さまだったから、まあ、耐えられたのだでしょうと思っている方がいるかもしれませんが。十字架はイスラエルの死刑の中で一番残酷な死刑方であって、イエスキリストにとってこの十字架の杯を取り除きたいほど耐えられないほどの苦しみでした。

みなさん！想像してみてください！イエスキリストが打たれた鞭(むち)には動物の骨となまり(鉛)のかたまりが各3つずつ差し込まれていて、一回打たれると肉のあちこちが引き裂かれついには骨が見られるほど、全お体が血だらけになりました。頭にはかなりの長いとげの冠が刺し込まれ流された血のためお顔が真っ赤になったのではないのでしょうか。

手のひらに釘を指すと、後になって肉が破れてしまいますから手首にさします。手首の2つの骨の間には大きい神経があるので、十字架からその身が落ちない、ということです。十字架から身が落ちかかると苦しくて身を引きあげます。そうすればするほど、かんなをあまりかけなかった木に背中筋の筋肉が当たって、後ろも血だらけになって、まるで十字架の上で血まみれのイエスキリストの姿を想像して見ると、どれだけむごたらしい光景でしょうか。

ある歴史的文献によるとイエスキリストが十字架に架けられたとき裸だったと伝えられています。まるで血まみれの肉の塊(かたまり)が木の上でうごめくいるようで、目を開けて見るにはとても忍べない光景だったそうです。肉体的苦しみだけではなく霊的にも人類の罪を背負い、そのうえ、お父様との関係まで断ち切られるくるしみをも受けられました(マタイの福音書 27:46)。

＜苦難の十字架の道＞

イエスキリストには一番残酷な処刑にされるなんの理由はありませんでした。それにもかかわらず、ユダヤ人たちはイエスキリストをきらって殺すようにとローマの総督であってピラトに引き渡し、ローマ総督は彼らの話だけを聞き入れて、イエスキリストが無罪であることを知っていたながらも彼らの反発をすませるつもりで、卑怯に十字架の処刑にイエスキリストを引き渡してしまいます。表だけでみると、イエスキリストはユダヤ人たちの度を過ぎた民族主義の感情の犠牲として処刑されているように見えます。ユダヤ人たちはたしかにローマからの独立を願

ながらも、イエスにはローマへの反逆を企(くわだ)てたという罪名をつけました。ローマにとってイエスは全然危険な人ではありませんでした。しかし、ユダヤ人たちの指導者たちであった、パリサイ人、長老、大祭司たち、そして群集があまりにもイエスの死刑を願っていたため、彼を処刑せざるを得ませんでした。

イエスキリストが十字架で処刑された場所は‘ゴルゴタ’という丘(おか)でした。これの意味は‘どくろ’ですが、おそらくこの低い山自体がどくろのように見えていたので、つけられた名前ではないかと推測されています。ラテン語では“カルバリ”といいますが、同じく“どくろ”という意味です。イエス様は十字架を背負って処刑される場所に移動されました。ほかの福音書ではイエスが最後まで十字架を背負うことのできなかつたので、クレネといういなかからきたシモンという人がいてむりやりにイエスの十字架を背負わされたと記録されています。十字架を背負う前すにあまりにもむち打たれていたため、体が血まみれになっていたため、イエスはこの十字架を最後まで背負うことができなかったのです。

<公開されたイエスの十字架処刑の意味 >

愛するみなさん!イエス様の十字架の事件には大きな珍しい特徴があります。驚かされるのはイエスキリストの処刑は一つも残らず、すべてが公開されたという事実です。なぜそうなったのでしょうか。イエス様の時代も、今日もほとんどの裁判においては被告人の人格を重んじて、処刑は公開されません。しかし、イエスの死は公開され、人々はイエスが十字架を背負って行く場面から始め、十字架に釘つけられる場面、イエスを処刑した執行人(しっこうにん)たちがイエス様の衣を分ける場面、そして、イエス様が十字架の上で、何を語られたのかまで、すべてを見聞きすることができました。ヨハネの福音書19章19節をみるとイエスの十字架の罪状書(ざいじょうが)きはヘブル語とラテン語、ギリシャ語の三つの言語で記録されていて、この方が誰であるか、なぜ死んだのか、みなに分かるように公開されました。

イエス様のこの十字架の公開処刑が持っている意味は何でしょうか。イエスの罪状書きには‘ユダヤ人の王ナザレ人イエス’だと記録されていました。総督であったピラトがこのように書いた理由は何だったのでしょうか。

これはイエスの死は決して個人の死ではなく、誰かの代表としてかわりに死ぬ死だったのが分かります。‘ユダヤ人の王イエス’という罪状はローマ総督としてのピラトからみれば、むしろすべてのユダヤ人たちが反逆者でした。本当にピラトが殺したかった人は目の前にいたユダヤ人の群集たちでした。しかしローマ総督であったピラトはユダヤ人たちが引き渡したイエスキリストを処刑することによってまるで、すべてのユダヤ人たちが処刑されたことになるという意味でこの罪状をかかげることによってみんなに知らせようとしたことに間違いのないと思います。つまり、本当に死なせるべき人々はあなたがたユダヤ人たちなのに、あなたがたの代わりにこのイエスを死なせることによってこれ以上あなた方には手をださないという意味が含まれていたのです。

愛する信仰の家族のみなさん!

イエスキリストの公開処刑を通して、十字架の上でのイエスキリストの死はただの個人の悲惨な死ではなく、代表的性格を持った死だったのを知らなければなりません。このような死を我々は、贖いの死だと言います。聖書をとおして、この十字架の贖いの死はイエスキリストが来られる前から旧約時代のイスラエル民たちがささげてきた神様の御前での罪赦しの儀式と精神と一致しているのが分かります。イエスキリストが来られる前までイスラエルの民たちは自分たちが罪を犯すたびにいけにえとして罪のない羊ややぎを殺して、その動物に自分たちの罪をかわりに負わせる儀式を守っていました。ですから、あがないの死というのは死なれるべき自分のかわりに、ほかのいのちがなくなることによって自分の罪の刑罰がなくなることの意味します。ローマ総督であったピラトはとっても残忍で狡猾(こうかつ)な人でした。彼はユダヤ人たちがどれだけずく、服従も知らず、反逆を好んでいる人たちなのか良く知っていました。だれよりもそのユダヤ人たちが殺したかったピラトでしたが、もし、彼らが暴動(ぼうどう)でも起こすかと思って、卑怯に彼らの王と言われている人を公開的に処刑することによって自分なりに妥協(たきょう)しようとしたのです。イエスは高く十字架にかけられ死なれました。すべての人々に見ろという意味でした。“おまえたちがいつもローマに反逆しようとしていることをわしは知っている。おまえたち全員を殺したいのだが、お前らの代表の一人を死なせることによっておまえらに対する復讐の感情を解けることにする。”これがまさに‘ユダヤ人の王イエス’という罪状がきに含まれている意味だったのです。

愛するみなさん!ここで我々は神様がピラトが知らないうちに彼を用いて父なる神様の心をそのまま代弁するようにさせたことが分かりますか。どんなことでしょうか。神様は我々人間の反逆性と罪性(ざいせい)をよくご存知です。ユダヤ人たちはローマに反逆する以前、

神様に対しての反逆者たちでした。神様の目ですべての人間は彼らの罪の結果によって裁きと永遠の滅びをうけて当然です。イエスキリストが処刑される前まではすべての人間が神様の裁きの対象でした。最後の一人まで神様の処刑の対象でした。この世には数十万、数億の死の十字架がかかげなければなりません。しかし、神様は愛するひとり子にすべての罪を全部負わせ、人間にあたるべきいかりのさばきを受けさせました。ひとりの神様であられるイエスキリストは代表として我々罪人のためのかわりに犠牲のいけにえとなってくださったことにより、神様と和解させ、神の恵みを受ける救いの道が開かれたということを神様も公開しておられたのです。

神様は我々の癒し主ですので、神様の前で癒されない苦しみはありません。しかし、正義の神様に不可能なことが一つあります。それは罪です。我々が反逆し、罪を犯すことだけは正義の神様ですので、我々の罪に対して直接赦し、回復させることはできませんでした。正義の神様ですので、罪に対して罪と言うべきであり、その罪の代価を問われるのは当然だと思います。しかし、同時に愛の神様なので、罪の中で永遠に滅ぼされるべき人類を愛し、イエスキリストをとおして我々の罪を解決させる方法を定めたのです。それが、まさにイエスキリストの十字架の上での贖いの死だったのです。イエスキリストが十字架に高くかけられたのはもはや我々に神の御怒りはくだらないという宣言です。高くかけられたイエスを通して、神様は我々にこう語ります。

“わたしはこれ以上あなたたちに怒りをくたさない。この一回の処刑によってあなたを赦すことができた。”

十字架にはこの神様の愛と罪赦しと救いのメッセージが含まれているのです。ピラトはイエスの罪状がきを‘ユダヤ人の王イエス’と書きました。我々はこの罪状がきをこのように読むべきだと思います。**“信じている者たちの王イエス”**

我々の王イエスキリストが十字架で公開的に処刑されたことにより、我々はあらゆる罪の牢屋から解放されました。彼のかかげられた姿を見る人はもう恐れません。なぜならその十字架の罪赦しと救いを信じる者に対して神様の裁きはもはや永遠に!完全に終わったからです。愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん!

イエスがかけられた十字架が見えますか。すると罪の牢屋から出てきてください。そしてこれ以上なにも恐れなくてください。いまみなさんが持っている苦しみと問題はなんですか。もう神様に明け渡してください。主の十字架の前におろしてください。イエスキリストの御前で癒されない苦しみはありません。赦されない罪はもうありません。この世で一番難しい問題はどうやって自分の罪の問題が解決され癒されるのかの事です。しかし、イエスキリストが十字架につけられた以上我々に解決されない難題(なんだい)はないことを信じてください。イエス様は“極めてひどい苦しみの十字架のあがないのみわざ”を通して十字架のイエス様を受け入れる者たちには誰もが救われる恵みをあたえてくださいました(ヨハネの福音書3章16節)。これには学歴もお金も見た目も家門も過去がどうであれ大切ではありません。十字架のイエス様の愛を受け入れる者はみな、救われるのです。これがまさにキリスト教の教えです。

(ローマ人への手紙10:9、ヨハネの福音書 17 章3節、使徒の働き4:12)。

<イエスキリストの受難と十字架に染みられた神の愛>

愛する信仰の家族の皆さん！イエスキリストの十字架は決して偶然ではありません。神様はわざわざご自分の犠牲を計画されました。そして自分の十字架になる木を植えさせました。そして自分の手にさし込まれる釘が造られるために鉄工所をこの地において下さいました。イエス様を裏切ったイスカリオテユダでさえ目的をもってある女の胎内で組み立ち、生まれさせました。それだけではありません。ポンテオピラトがエルサレムに転勤されるように政治の組織まで動かした方もイエスキリストでした。どんなに残酷な犯罪人だとしても生まれる前からこの世の中で一番残酷な死刑で死ぬと定められませんでした。

そんなイエスキリストの十字架の贖いの死のたった一つの理由は私たちの罪を赦すため、それによって救うため、一言で言いますと愛のためでした。神様が創造されたすべての人類のためにそうなされたのです。神であるイエスキリストはいくらでも十字架の苦しみを避けることが十分できました。(ヨハネの福音書10:17-18)。

しかしイエス様はそうしませんでした。苦しみの杯の前で、なやんで死にそうでしたが、イエスキリストはその苦しみの杯を避けませんでした。そうできないからではなくご自身が十字架を避けませんでした。ヨハネの福音書3章16節にはこの世を造られた神様がご自分のひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためであると教えています。“神様がご自分のひとり子をお与えになったほどに”英語聖書では“*For God so loved the world!*”だと訳されています。これは神様がイエスキリストの十字架を通して私たちに見せてくださる最高と最善の愛の表現でした。もし今もみなさんの中で生きておられる

神様が自分を本当に愛して下さっている証拠が見たい方がいますか。その方は主の十字架を見上げてください。主の十字架は神様がどれだけ私たち一人一人を愛して下さったのか、そして今もなお、将来も愛して下さるのが一番よく分かる近道です。

みなさんがよくご存知のローマ人への手紙8章35節から39節まで何方が読んでいただきませんか。

“私たちをキリストの愛から引き離すのはだれですか。患難ですか、苦しみですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。．．しかし、私たちは、私たちが愛して下さった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちが引き離すことはできません。”

愛するみなさん！なぜイエスキリストはあれほど残酷な十字架を放棄しなかったのでしょうか。群衆たちがイエス様につばを吐(は)いた時にもイエスは相変わらずその人たちを最後まで愛しました。裸にされても、打たれても、十字架の上で主は、最後にも“父よ。彼らをおゆるしてください(ルカの福音書23章34節)。”と祈って下さったのも我々を愛したためでした。

“主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたからです。(ローマ人への手紙4章25節)”、“肉によって無力になったため、律法にはできなくなっていることを、神はしてくださいました。神はご自分の御子を、罪のために、罪深い肉と同じような形でお遣わしになり、肉において罪を処罰(しょばつ)されたのです。(ローマ人への手紙8章3節)”

イエスキリストの方からは神様と罪人である私たちと全く和解して下さる必要はありませんでした。救われるために、私たちこそ神様との関係が和解され、回復されなければならなかったのにイエスキリストが御代わりに十字架上ですべての罪の代価を払い、死んで下さったため私たちは神様と和解することが可能になりました。ただ我々を哀れみ、愛して下さったその理由しかありませんでした。

コロサイ人への手紙1章20節から21節まで何方が読んでください。

“その十字架の血によって平和をつくり、御子によって万物を、ご自分と和解させて下さったからです。地にあるものも天にあるものも、ただ御子によって和解させて下さったのです。あなたがたも、かつては神を離れ、心において敵となって、悪い行ないの中にあつたのですが、今は神は、御子の肉のからだにおいて、しかもその死によって、あなたがたをご自分と和解させてくださいました。それはあなたがたを、聖く、傷なく、非難されるところのない者として御前に立たせてくださるためでした。”

愛するクリスチャンプレイズチャーチの家族のみなさん！

神様が私たちのために十字架の上でなされたすべての御わざは2000年のことでだけではなく、今も、未来の子孫たちにも有効(ゆうこう)です。今日の本文30節に、イエスキリストは十字架の上で最後に「完了した」と宣言しました。人類の救いのためすべてを成し遂げた！だから救われるためほかにいらぬし、ありません！

イエス様の十字架による罪の赦しと癒しの恵みが 現在、今も十字架のイエス様を信じる者たちにも通用されるという意味なのです。イエスキリストは我々を救いのためすべてを完了しました！エペソ人への手紙1章7節では“私たちはこの御子のうちにあつて、御子の血による贖い、すなわち罪のゆるしを受けているのです。これは神の豊かな恵みによることです。”

<愛の実践> (本文20節—21節を読んで見ましょう。主の恵みを頂いた者として他の者を裁かないで、愛を持って仕えて行く事)

愛するクリスチャンプレイズチャーチのみなさん！最後に第一ヨハネ4章9節—11節に十字架の愛を受けた者たちにこのように強調しています。何方が読んでくださいませんか。“神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示(しめ)されたのです。私たちが神を愛したのではなく、神が私たちが愛し、私たちの罪のために、なだめの供(そな)え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。愛する者たち。神がこれほどまでに私たちが愛して下さったのなら、私たちがまた互いに愛し合うべきです。いまだかつて、だれも神を見た者はありません。もし私たちが互いに愛し合うなら、神は私たちのうちにおられ、神の愛が私たちのうちに全(まっとう)されるのです。十字架の主は我々のすべての罪を赦し、神様と和解させる力があります。もう一度十字架の主を見上げ今も主の十字架から流される主の愛を抱き、主の愛を持って家族、兄弟姉妹、人々をさらに主の愛を分け与え、仕えて行くクリスチャンプレイズの全信仰の家族となりますように御名によって祝福し、お祈り申し上げます。アーメン。